

FAX番号変更のお知らせ

8月1日より、会のFAX番号が以下に変更になります。
050-3588-8097 ※FAX専用の回線です。

各種相談先のご案内

行政、民間で、自死の遺族向けに相談を行っているところがいくつかあります。また、「こんな相談先はないでしょうか?」など、ご不明なことがあれば、会の者にお尋ねください。

自死遺族向け面接相談(無料)

○愛知県精神保健福祉センター

要予約 052-962-5377

毎月第3木曜日 午後2時-3時30分

○名古屋市精神保健福祉センターこらぼ

要予約 052-483-2095

毎月第3火曜日 午前10時-12時

法的なことでの相談

○全国自死遺族法律相談ホットライン

電話番号:050-5526-1044

受付時間:毎週水曜日(祝日を除く)12時から15時まで

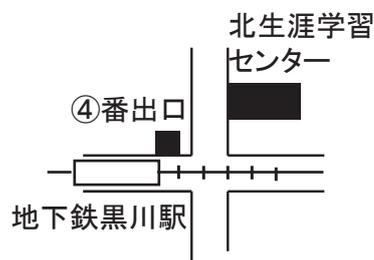
自死遺族支援弁護団

<http://www.jishiizoku-law.org/>

次回の遺族会

第105回

8月1日(日)13:15から
名古屋北生涯学習センター
地下鉄名城線「黒川」下車
(4番出口)よりすぐ
参加費:500円



その次は...

第106回 2021年10月予定。
※8月12日に決定します。
※状況によっては中止・変更になる場合があります。直前にご確認ください。

日程は、ホームページまたは、電話案内でご確認いただけます。
パソコンの方

<http://will.obi.ne.jp/remember/>
携帯電話の方

<http://www.will.obi.ne.jp/m/>
電話案内(録音でのご案内)
090-8544-9408

新聞郵送をご希望の方へ

1月~6月末までのお申し込み(前期)…1000円
7月~12月末までのお申し込み(後期)…500円
詳しくはスタッフまで

8月7日 自死遺族によるネット座談会

第4回「スーカフェラジオ」のご案内

他団体からのご案内です。

以下のように「スーカフェラジオ」として、自死遺族によるネット上での座談会が行われます。よろしければお聞きください。

日時:2021年8月7日(土)14:00-15:00

対象:大切な方を自死で亡くされた方、自死遺族支援に関心のある方(18歳以上)

主催:スーカフェ名古屋 (<https://twitter.com/sucafe758>)

参加方法:Zoomウェビナー使用

事前申し込み不要。

右のQRコードのリンクからお入りください。

当日ニックネームとメールアドレスをお知らせください。



-感染への不安を減らすため、ご協力をお願いします-

- ・アルコールでの手の消毒など(アルコールは準備します)。
- ・マスクをお願いします(予備は受付で準備します)。
- ・トーキングスティック(話す人が合図として持つもの)を使わない形で行います。
- ・大きめの輪か、できるだけ弧に近い形にします。
- ・お茶など飲み物は各自ご持参ください。

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。
詳しくはお問い合わせください。

〇〇 近隣の遺族会のご案内

以下中止・延期の場合もありますので、直前にご確認の上、お出かけください。

次回「ディアレスト」のご案内

家族ではないけれども大切な人を自死で亡くされた方を対象に、遺族会「ディアレスト (Dearest)」が開催されています。今回はオンライン(Zoom)で開催予定です。

日時：2021年9月12日 14:00 - 15:30

対象：家族以外の大切な人（恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など）を自死（自殺）で亡くされた方

連絡先：the.dearest1@gmail.com

<http://dearest.heyajp>

次回「～こころの居場所～AICHI自死遺族支援室」のご案内

今回は9月26日に遺族会・講演会の予定となっています。詳しくは、ホームページ等をご覧ください。

連絡先：cocoroibasyo@yahoo.co.jp

090-4447-1840 <http://cocoroibasyo.org/>

次回「いっぷく処」のご案内

さまざまな宗派の僧侶の方が集った「いのちに向き合う宗教者の会」による、自死遺族のわかちあい「いっぷく処」ですが、今回は未定となっています。

また、「いっぷく処 お便り」として、会の担当の僧侶との文通によるやり取りを行っておられます。

次回の予定、文通方法など、詳しくは下記までお問い合わせください。

主催：いのちに向き合う宗教者の会

連絡先：info@inochi.in <http://inochi.in/>

その他、近隣の自死遺族のわかち合いの会

岐阜「千の風の会」・・・

問い合わせ：岐阜県精神保健福祉センター
058-231-9774

三重「わかちあいの会」・・・

問い合わせ：三重県こころの健康センター
059-253-7821

浜松「浜松わかちあいの会」・・・

問い合わせ：浜松市精神保健福祉センター
053-457-2709

その他、全国に自死遺族のわかち合いの会があります。詳しくはお問合せください。

りめんばー

梅雨が明けて急に暑さが増した7月後半、京都アニメーションの事件から2年、明石歩道橋事故から20年が経過し、新聞にこれらの記事が載っていました。

「月日の経過とともに感情が薄れるとか忘れるとかは決してない」（京都アニメーション社長）

「苦しそうな顔がまぶたに張り付いて、笑顔がなかなか思い出せない。だから、名刺入れに1枚だけ、写真を入れている」

（明石事故遺族）

新聞に並ぶ言葉一つ一つが、心に刺さるように入ってきます。2年はもちろん、20年という時間でさえも、遺された者にとってはまだまだ過去の出来事にするには短すぎるのでしょうか。自分自身、この夏で遺族となって21年になるのですが、まだ生々しい記憶のままです。

明石歩道橋事故の記事は、東京オリンピックの競技が開始された21日の夕刊の一面トップで掲載されました。20年も前に起こった事故の遺族の声が、オリンピックよりも大きく伝えられるということは、事故の重大さと共に、遺族が悲しみ続けることを、社会が受け入れつつあることでもあるように感じました。

一方で、今回のオリンピックに出場した水泳選手の記事は別の意味で心にひっかかりました。「『死にたい……』一度だけ母親にこぼしたことがある。」で始まる記事では、2年前に白血病を患い、病院のベッドから動けない状態になった時に言ったその言葉と、その後のすさまじい努力によってオリンピック出場を果たすまでの思いが綴られていました。その記事に新聞社がつけたタイトルは「さよなら弱音」でした。

大切な人を亡くしたという悲しみを、そのまま持ち続けることは受け入れられつつある一方で、今まさに死にたいほどの苦しみを抱えている人には、その気持ちを「弱音」として、吐いてはいけないものとする風潮はまだまだ根強いのでしょうか。

賛否さまざまあったオリンピックは、連日選手たちの活躍が伝えられています。オリンピックが終わったあと、また静かに21回目の命日を迎えます。（KN）